【挑戦：情報活用能力の育成①】文字入力（小学校編）

岡山県教育庁義務教育課

新学習指導要領（小中高特）では、「情報活用能力」が「言語能力」「問題発見・解決能力」と共に、学習の基盤となる資質・能力の一つとして位置付けられています。児童生徒が１人１台端末を活用する上で欠かせない「文字入力」も情報活用能力の一つです。小学校学習指導要領で示された**「児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動」**について、取組を取材してきました。

★取材協力校　【笠岡市立新山小学校】　【久米南町立弓削小学校】

（1）鍵盤ハーモニカの指導に学ぶ

新山小１年生の教室。担任の先生は鍵盤ハーモニカの指使いを丁寧に指導し、児童はその指使いを正確に覚えようと練習に励んでいました。

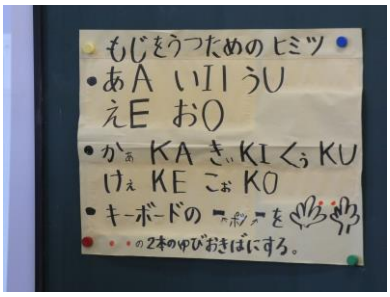
このように、**文字入力も速く正確に入力できるように、指使いを習得したり、日常的に練習に取り組んだりすることが大切であると考えます。**

（2）新山小 低学年の挑戦

左：新山小１年生。「学びの天気」というアプリを使って、学習の振り返りをキーボード入力しています。ローマ字表を参考に、入力することができていました。

右：新山小２年生。Google の Jamboard を使って、教科書挿絵の登場人物の気持ちを考えてキーボード入力することに挑戦していました。

（3）弓削小 ２年生の挑戦



弓削小２年生の児童にとって、キーボードは関心の的。初めは、A を押すと「あ」と入力されることに驚いたそうです。「もじをうつためのヒミツ」をテーマにキーボード入力を習得中で、指導のポイントは、ホームポジションと指使い。児童の人差し指は F と J のキーの上にあり、A は左手小指、O は右手薬指など、正しい指使いを見事に習得しつつあります。

今回はあいうえお５０音表を参考にしながら、友達の好きな色を打つ課題。「むらさき」「みずいろ」など、新しい文字を打つごとに喜びがあふれます。好きな色は「？」だという友達の答えについても、先生から「？」の入力の仕方を学び、歓声が上がっていました。

（4）日常的な練習

左：弓削小４年生は、ジャストスマイルのタイピングソフトを使用して練習していました。隙間時間を有効に活用しています。

右：新山小は、全校で毎週金曜日に 15 分間のキーボード入力練習に取り組んでいます。速く入力できるように「キーボー島」を使用して練習していました。

新山小では、指使いをマスターするために、「Playgram」という Web サイトを利用して、指使いのガイドを表示しながら練習する児童もいました。

指使いがガイド表示される無料タイピング教材は、「マナビジョン（ベネッセ）」などもあります。https://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/typing/

１人１台端末活用の先進校でも「マナビジョン」のタイピング教材を利用しています。YouTube【Google for Education】チャンネル 「クラウド・１人１台端末の持ち帰りで変わる家庭学習」https://youtu.be/a3dwHzH0Sb8?t=45

（5）どれくらいできればよいのか？

2013 年度に実施された「情報活用能力調査」では、キーボードを使用した文字入力の調査が行われ、以下の出題問題がありました。

【解答時間：小学校５分，中学校３分】（全角換算 72 文字）

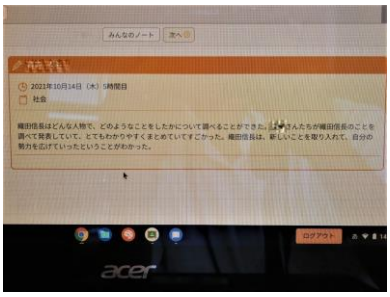
わたしたち3はんは，自動車工場へ見学に行きました。働く人にインタビューをし，デジタルカメラを使って，写真をとりました。写真は CD-R に保存しました。

結果

小学生 5.9 文字/分

中学生 15.6 文字/分

キーボード入力の指使いの習得や日常的な練習に取り組んでいると、結果は向上していくと考えられます。昨年度、先進校で実施した文字入力調査（文章を見ながら入力する視写入力）では、端末導入から約３か月間、日常的に練習した高学年のクラスで **27.2 文字/分（漢字変換含む）**というデータもあります。



各校で情報活用能力を体系的に育成する目標を設定することが重要ですが、岡山県教育庁義務教育課作成の「教科指導における ICT 活用事例集（令和３年６月）」では、小学６年生での目標例として、**「タッチタイピングを意識して、１分間に漢字変換を含み 30 文字を入力できる」**と示しています。

新山小６年生の社会科の学習の振り返りでは、約 3～4 分間で 124 文字（漢字変換含む）を入力する児童もいました。これは文章を考えながら入力する「思考入力」の結果です。

（6）今回のまとめ

今回取材に協力いただいた笠岡市立新山小学校と久米南町立弓削小学校に共通して感じられたことは、「**挑戦させてみる先生方の気概**」です。ローマ字を学習するのは３年生ですが、児童の実態に応じて低学年から慣れてみる、挑戦してみることは不可能ではありません。

文字入力は、「自分の考えをデジタル化する」活動です。デジタル化することで、インターネットを介して友達や多くの人に自分の考えなどを広く伝えることができます。そのために、日常的に少しずつ練習に取り組み、プレゼン作成や新聞作成などの学習活動で、そのスキルを生かすことが大切になると考えられます。

今、児童に求められる情報活用能力の一つとして、キーボード入力の練習に少しずつ挑戦させてみましょう。